

第4回 天塩川流域委員会 議事要旨

開催概要

日 時：平成16年12月6日(月) 12:30～14:45

場 所：土別プリンスホテル

出席者：清水委員長、石川副委員長、井上委員、梅津委員、岡村委員、黒木委員
酒向委員、菅井委員、田苅子委員、橘委員、出羽委員、長澤委員
肥田委員、本田委員、前川委員、山口委員 (以上16名)

主な意見

天塩川水系河川整備計画について

(流域の概要)

- ・ サクラマス・ヤマメの分布図は、基礎となる調査データについて、精査・検討をすべきである。検討を行うならば、ヤマメが確認されているというよりも産卵がどのくらい確認されているかということを目安においた方が良い。

(河川整備基本方針)

- ・ 基本高水流量は、安全を重視して最大のピーク流量を採用しているため、過大な治水対策が求められることになり、自然環境保全と治水との調整が困難となる場面がある。100分の1確率雨量224mmに昭和48年の降雨パターンを当てはめ、ピーク流量6400m³/sとしているが、それ以上の降雨量233mmがあった昭和56年でも、4400m³/sであり、基本高水流量は、一つの基準であって絶対的なものではないと思う。
- ・ 昨年の日高の豪雨をはじめ、全国的にも計画を上回る現象が多々発生しており、計画を上回る可能性はいくらでもある。データ整備が進んだ近年でさえ、4、50年間にこういうことが全国的に起こっていることを認識すべきである。
- ・ 洪水流量増加の原因には、流域内の土地利用の変化、森林の伐採、保水力の変化などがあるのではないかと。森林の保水力の検討が必要である。
- ・ 天塩川の流域面積を踏まえると、流域の土地利用の変化・都市化によるというより、計画策定後のデータの蓄積や大きな降雨や洪水が発生したからではないかと。

(治水)

- ・ 岩尾内ダムの洪水調節効果量を水位に換算して示してほしい。
- ・ ケース2の場合では、河道掘削によりサケの産卵床が保全できない箇所が生じるとあるが、サケの産卵床の位置を考えて低水路を掘削する等、技術的に解決できるのではないかと。その事をもっと検討する必要がある。
- ・ サケの産卵床は湧水のある場所など周辺環境と関連した場所にあるので、河道掘削は産卵床の周辺環境を含めて考えるべきである。
- ・ 過去の洪水の原因をわかる範囲で整理し、その具体的対策を検討した上で、全体としてど

のように整備すべきかを議論したい。また、昭和 46 年に岩尾内ダムが完成した後も洪水氾濫が起こっており、岩尾内ダムの洪水を防ぐ効果は小さかったのではないかと。また、平成 4 年以降本流、名寄川ともに洪水、氾濫面積が大きく減少しているのはなぜか。

- ・ 子供の頃大きな雨が降ると家の前にはいつも水が溢れ長靴でざばざば越えて歩くような状態であったが、昭和 46 年に岩尾内ダム完成以降、そういう傾向は無くなった。
- ・ 昭和までは雨が降ると特に雄信内地区を含めて川が氾濫していたが、この 10 年位前から水がつくのは一部であって、川の整備が進み、氾濫が非常に少なくなっているという印象を持っている。
- ・ 今までの洪水では、岩尾内ダム下流の支川で集中豪雨が降り、本川と合流する部分で流量が急激に増えることが多かった。山の保水能力がなくなり、また、雨が降ると河川に一気に流出するような気がしており、その対策が必要であると感じている。
- ・ 剣淵川流域では、平成 13 年、14 年も農業被害が結構であり、これは支川の流下能力が河畔林で低下した結果によるものである。河川の管理者が異なっていて難しいと思うが、流域に住む者の願いとしてそういった所にも配慮してほしい。
- ・ 過去の洪水を見るときに、それまで河道や堤防整備などをどのように行ってきたかが重要であり、特に堤防が一連として繋がった時期が大事である。外水に対する安全度を上げるとともに、内水対策も必要である。
- ・ 過去の事例から学ぶことも重要であるが、世界的に異常気象が言われており、特にここ数年、過去に経験したことのない雨の降り方をしていることから、最大限のレベルに視点をおいて治水対策を考えていくべきではないか。
- ・ 治水対策案の比較で、経済的に安く、効果の発現が早いのが良いという整理になっているように見えるが、多少費用がかかっても環境に配慮するのが、河川法改正の意味ではないのか。
- ・ 国の財政は厳しく、費用がいくらかかっても良いというわけではない。また、地域としても同じ費用であれば早く洪水をなくしてほしいという願いはあると思う。法改正による環境面の検討が見えないとの指摘については、治水の項目で議論するのではなく、本来、利水・環境の項目で議論すべきである。さらに、治水面においてもダム案は河道に対する影響が少なく産卵床、テッシの保全につながるなどの検討等に反映されている。
- ・ 遊水地候補箇所は他にも考えられ、遊水地案についてもっと検討する必要があるのではないかと。ダムに頼らず、遊水地、河川改修による治水対策を十分に検討した上で、ダム案と比較する必要がある。
- ・ 天塩川流域懇談会時の資料では、ダム建設コスト 280 億円(治水分)、遊水地コスト 370 億円で、ダム案の方がコストが低く、治水効果が早く実現できるとなっていたが、今回のダム案 370 億円(既事業費 124 億円含む)、遊水地ケース 1 案 350 億円、遊水地ケース 2 案 710 億円(資料 2-44)の関係はどうなっているのか。内訳を明確にしてほしい。また、魚道のコストはいくらか、それはこのダム案のコストに入っているのか示してほしい。

い。

- ・ 河道掘削が大きくなると環境に与える影響が大きいのと思うので、整備計画の3案による基本方針流量に対応するための事業費比較だけでなく、将来計画との関連を示してほしい。
- ・ 河川整備計画における環境や利水面についても具体的な目標等を示すべきである。
- ・ 天塩川のこれからの河川整備や今後の展望を描いていくべきであり、治水とともに、河川空間の活用を検討する必要がある。例えば、川の駅を整備し、自然の良さを満喫したり都会にはない癒しを体験する天塩川などをテーマにして議論して欲しい。
- ・ 利水システムは、ハード面、それを運営していくソフト面においても洪水制御に関係している。したがって洪水対策は、治水の視点だけでなく、利水・環境を含めて全体的に議論した方が良いと思われる。

以 上